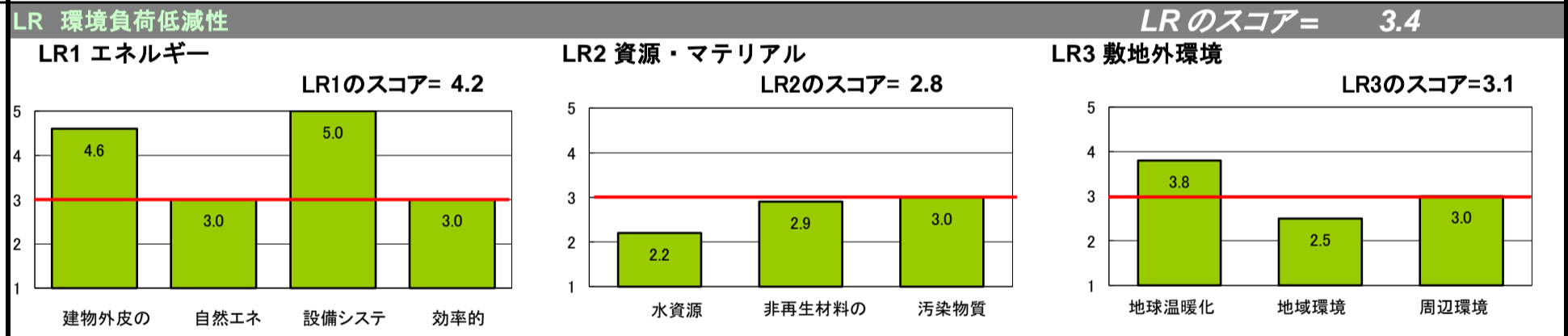
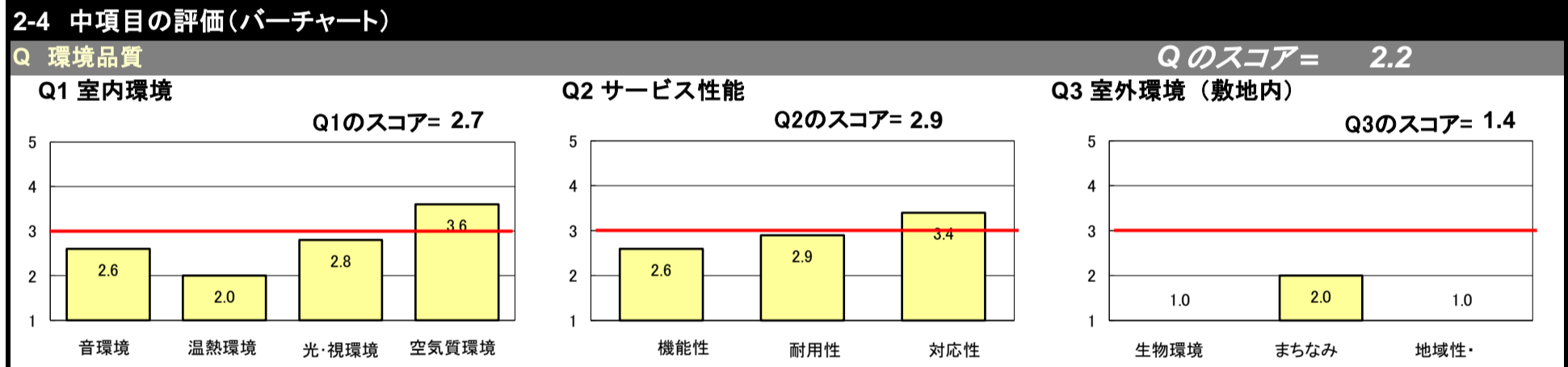
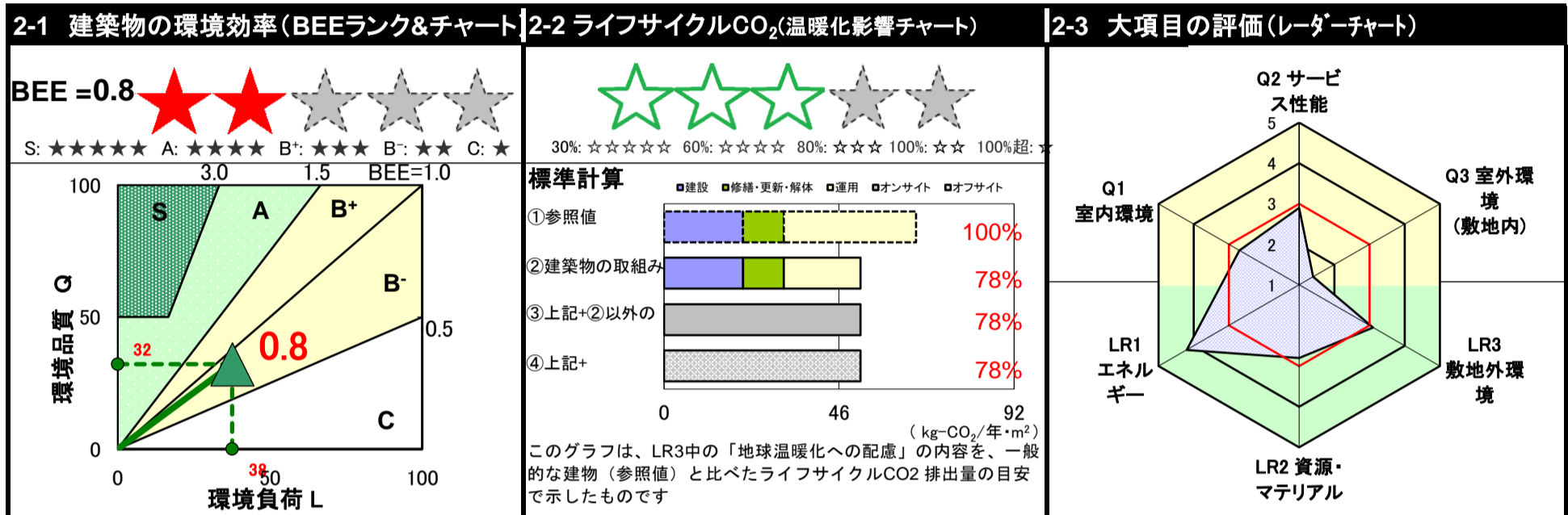


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	勅使川原産業株式会社 あま物流センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県あま市方領五反地11番1他24筆	構造	RC造
用途地域	法第22条地域、防火地域なし	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年9月 予定	評価の実施日	2020年11月30日
敷地面積	8,658 m ²	作成者	大塚 貢
建築面積	2,601 m ²	確認日	2020年11月30日
延床面積	2,869 m ²	確認者	勅使川原 賢



3 重点項目					
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.2
Q1 室内環境										2.7
1 音環境										2.6
1.1 室内騒音レベル				0.1	2.6	0.15	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1.2.2 1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60	-	-	-	
1.2.2 2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40	-	-	-	
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音				-	1.0	0.20	-	-	-	
2 温熱環境				0.3	2.0	0.35	-	-	-	2.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-	
2.1.1 1 室温				3.0	3.0	0.38	-	-	-	
2.1.1 2 外皮性能				3.0	3.0	0.25	-	-	-	
2.1.1 3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30	-	-	-	
3 光・視環境				0.2	2.8	0.25	-	-	-	2.8
3.1 昼光利用				0.3	3.6	0.30	-	-	-	
3.1.1 1 昼光率				2.0% ≤ [昼光率] < 2.5%	3.0	4.0	0.60	-	-	-
3.1.1 2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	
3.1.1 3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 グレア対策				0.3	2.0	0.30	-	-	-	
3.2.1 1 グレア制御				5.0	2.0	1.00	-	-	-	
3.3 照度				3.0	3.0	0.15	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	-	-	-	
4 空気質環境				0.2	3.6	0.25	-	-	-	3.6
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-	
4.1.1 1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を使用している。	3.0	4.0	1.00	-	-	-
4.2 換気				0.3	3.3	0.30	-	-	-	
4.2.1 1 換気量				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
4.2.1 2 自然換気性能				窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	3.0	4.0	0.33	-	-	-
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
4.3.1 1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.3.1 2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.30	-	-	-	2.9
1 機能性				0.4	2.6	0.40	-	-	-	2.6
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1.1.1 1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.1.1 2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.1.1 3 バリアフリー計画				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	2.6	0.30	-	-	-	
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.2.1 2 リフレッシュスペース				リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上	3.0	4.0	0.33	-	-	-
1.2.1 3 内装計画				3.0	1.0	0.33	-	-	-	
1.3 維持管理				0.3	2.0	0.30	-	-	-	
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計				3.0	2.0	0.50	-	-	-	
1.3.1 2 維持管理用機能の確保				-	2.0	0.50	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	2.9	0.31	-	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2.1.1 2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.1	0.33	-	-	-	
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	5.0	0.09	-	-	-	
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19	-	-	-	
2.4.1 1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.4.1 2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	
2.4.1 3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.4.1 4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.4.1 5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	3.7m以上、3.9m未満 [壁長さ比率] < 0.1	-	4.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.38	-	-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	1.0	0.30	-	-	-	1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	1.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	1.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.84	3.0	4.6	0.22	-	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.58	3.0	5.0	0.46	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護			0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水			3.0	1.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロアを使用し再利用できるユニット部材を用いている。	3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	I-1) 適切な量の駐車スペースの確保 II-1) 建物利用者のための適切な量の自転車置場(バイク置場を含む)の確保、駐輪場利用者の利便性への配慮 II-3) 駐車場の導入路(出入り口など)の位置や形状・数への配慮	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 勅使川原産業株式会社 あま物流センター

計画上の配慮事項	
総合	<p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>
Q1 室内環境	<p>窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。</p>
Q2 サービス性能	<p>リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>特になし。</p>
LR1 エネルギー	<p>BPI=0.84、BEI=0.58。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>OAフロアを使用し再利用できるユニット部材を用いている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>LCCO2排出率78%</p>
その他	<p>特になし。</p>